

明日 への 話題

AIの進化と 共に生きる



野村ホールディングス
取締役会長

ながい こうじ
永井 浩二

AIの急速な進化は、私たちのビジネス環境や日常生活に革命的な変化をもたらしつつある。膨大なデータの中から情報を抽出・分析したり、文章の作成や要約に活用したりと、すでに業務効率化や生産性向上の観点でAIを導入している企業は少なくない。個人の生活においても、イラストや映像の生成など、活用の幅は広がっている。一方で、本誌の読者の中には、AIはご自身にはあまり関係がないものとお考えの方もいらっしゃるのではないだろうか。しかし、AIの活用を含むDXの流れはメガトレンドの一つで不可逆的なものであり、近い将来AIが私たちの生活に欠かせない存在となる時代が到来することは紛れもない事実である。

これまでも社会や産業構造を根本から変える、いわゆる産業革命は幾度となく起きてきた。第1次産業革命では水力や蒸気機関による工場の機械化が進み、第2次産業革命では石油や電気といった動力を用いた大量生産が大きく進展した。自動車産業が勃興し、交通手段に大きな変革をもたらしたのもこの時期である。コンピューターが登場した第3次産業革命では、ITを活用した生産の自動化・効率化が実現し、さらにインターネットの普及により本格的な情報化社会の到来を迎えることとなった。

第4次産業革命では、IoTなどの先進技術が社会に深く浸透する。スマートフォンが普及したのもこの時代だ。そして2020年代に入り、生成AIが急速に普及し、従来の業務効率化からビジネスモデルの変革に至るまで、あらゆる業界に影響を与え、DXをさらに加速させている。これまで人間が担ってきた労働をテクノロジーが代替するようになり、業種を問わず企業のあり方そのものにも変革を迫っていると言えよう。このように生成AIは、これまでの産業革命を超える変化をもたらすとされており、単なる仕事のツールにとどまらず、私たちの生活を根本から変える存在となることだろう。そしてその変化は、まさに今、めまぐるしい速さで進行しているのだ。

AIの活用に向けて解決すべき倫理的課題が多く残されているのも事実だが、かつての産業革命で生み出された自動車やスマートフォンのように、AIも私たちの生活に必要な不可欠な存在となることを前提に、AIがもたらす変革に対して我が事として向き合い、真摯に学び続けていく必要があると改めて感じる次第である。